

東川の宝物

あなたの一番好きな季節はいつですか。春夏秋冬それぞれの好みはあるけれど、春と答える方が東川では多いように感じます。実は私も春が一番好きです。解けた雪の下から咲く花を見つけた時、うらかな鳥のさえずりを聞いた時、山が緑に変わっていく風景を眺めた時、心から幸せな気持ちになります。キトウシ森林公園の森に春を告げるのはカタクリの花です。雪が解けたすぐ後にフクジュソウが咲きますが、まだまだ肌寒い日が多いので、あまり春の実感がありません。体の緊張を解いてゆったりとした気持ちで散策を楽しめるのは、カタクリが咲くころなのです。淡いピンクの花は色の少ない森を彩り、心まで華やかにしてくれます。

カタクリは1年のうち2カ月間しか地面の上に出てきません。2カ月間で栄養を茎に蓄え、後の10カ月は地面の中で眠っています。その蓄えた栄養が、種から数えて8年経つとようやく花を咲かせます。一つの花が花を咲かせているのは1週間ほど。キトウシ全体では2週間ほどしかありません。

あまり知られていませんが、キトウシ森林公園の



Nature Column (ネーチャーコラム)
自然解説員などで活躍する人々をリレーしています。



カタクリは上川管内でも一、二を争うほど大規模な群落です。これはまさしく東川の宝物といえるでしょう。花を見るチャンスは2週間ですが、開花のピークといえる日は2週間のうち2日間ほどしかありません。一瞬で駆け抜ける東川の春をキトウシ森林公園で感じてみてください。

NPO法人ねおす・大雪山自然学校

コーディネーター

小林

峻



本で知るふるさととの山

大雪山を駆け巡った軍犬リユー

大雪山でクマの観察、研究を続け、『野生のヒグマ 母グマK子の記録』『大雪山のヒグマ』などの著書がある小田島護さん（網走市卯原内在住）が今年2月、東川町に29冊の書籍を寄贈されました。

大雪山の貴重な本ばかりで、その一冊に永田洋平著『北国の動物たち4』があります。

小田島さんは「戦時中、軍用犬が大雪山を縦横無尽に走っていたので」と教えてくれました。

『軍犬リユー』の話です。

リユーは雄のシェパード。旭川に司令部があった北部軍の軍犬で、著者、永田洋平は軍犬班班長でした。基礎訓練を終えた昭和18年に天ノ峡温泉裏手の谷間でキャンプ、トムラウシ山で山岳訓練を受けています。

そして、厳冬期演習が昭和19年2月14日から行われます。「白金温泉から、いったん十勝岳にむかい、そ

こから大雪の中央火口をへて愛山溪に至る、10日間78キロの縦走コースは、常時、零下30度をくだる最難関の冬の仮装戦場であった」。敵軍に包囲され、孤立した前線から、リユーは伝令を付けて跳び出し、

黒岳、北鎮岳、間宮岳を走り比布岳の北部軍司令部へ、二重三重の包囲網をくぐり抜けます。御鉢平では、猛毒の硫化水素の流れを正確に読んで有毒温泉を突っ切ったのです。勇敢で賢い疾走に兵士は驚きました。



大雪山に関する本を町に寄贈した小田島護さん

終戦後、永田さんは弟子屈の原野を開拓、リユーも一緒に暮らしました。開拓原野でも火事や洪水から人命を救出する大活躍を続けたのです。リユーは実話ですが、大雪山を舞台にした動物の物語としては、戸川幸夫著『牙王物語』、石川球太の漫画『牙王』も夢中になります。オオカミとイヌの間に生まれた主人公『キバ』がどう猛なヒグマ『片目のゴン』と対決するまでのハラハラドキドキの物語です。

町史編さん専門員、西原義弘